

【鳥取県の全体目標】 がんによる死亡者の減少 75歳未満がん年齢調整死亡率(人口10万対)を70.0未満とする
(令和5年度まで) (男女別の目標値 男性：90.0未満 女性：50.0未満)
 【中期目標】 高精度放射線治療を進めつつ、県民の放射線治療に対する理解度の向上を図る
(令和3年度～令和5年度)

前年度の目標	目標：県内の放射線治療を必要とするすべての人に、質の高い治療を安全に提供する	
	前年度Plan	前年度Act
治療の高精度化を推進し、かつ標準的で安全な治療に徹する。	鳥取大学病院および県立中央病院における高精度放射線治療の推進は順調と考えてよい。他施設における通常治療に関してもこれまで通り行われているが、コロナの影響がでており、症例数を伸ばすという点では十分ではなかった。	

今年度の目標	高精度かつ、標準的な放射線治療の推進を維持しつつ、地域の病院との連携を進め、各病院において症例数の増加を計る。			
Plan(計画)	Do(実施)	Check(点検・評価)	Act(処置・改善)	
治療の高精度化の推進	鳥取大学病院、県立中央病院 鳥取大学病院 IMRT 定位放射線治療(SRT)：体幹部、脳 画像誘導小線源治療(IGBT)、組織内照射併用 県立中央病院 定位放射線治療(SRT)、IMRT	・鳥取大学における組織内照射併用腔内照射は順調に症例の蓄積が進んでいる。 ・脳定位照射は8月から開始、症例は現在週1例ずつとし、脳転移だけでなく、髄膜腫、聴神経腫瘍などに対する定位照射も施行している。 ・県立中央病院のIMRTも順調に症例を蓄積中。	・鳥大病院：IMRT、SRT、IGBT ・県立中央病院：IMRT、SRT 鳥取大学病院 全体的な件数は減少したものの、IMRT50%前後はキープ、SRTは増加、IGBTは特に組織内併用が増加した。 鳥取県立中央病院 IMRTは順調に行われており、練度はアップしている。SRTも順調に行われている。 県内で高精度治療可能な両施設ともに高精度治療を順調に推進しつつある。	
標準的かつ安全な治療の継続的な提供	鳥取大学病院（常勤医4、専門医3名） 県立中央病院（常勤医2、専門医2） 鳥取赤十字病院（常勤医0、専門医0） 県立厚生病院（常勤医0、専門医0） 鳥取市立病院（常勤医1、専門医1） 米子医療センター（常勤0、専門医0）	3次元照射（3-DCRT）、IMRT、SRT、IGBT、Isotope 3D-CRT、SRT、IMRT 3D-CRT 3D-CRT 3D-CRT、IGBT 3D-CRT	・鳥取県においては、常勤医がいる施設、非常勤のみの施設（鳥取大学医師を派遣）、ともにガイドラインにそった標準的な治療を行うことを徹底している。 ・安全面に関しては、各病院でマニュアル等を作成し、随時チェックし、評価する。また、病院間での情報共有も重要である。	・鳥取大学放射線治療科では、継続的に標準的な放射線治療を行うことを重視している。診療支援等を行っている県内の施設（鳥取大学専門医が治療を担当）においても同様である。 ・安全面では、マニュアル等が作成されていること、そしてそれに基づいてチェックが行われているかどうかを評価する必要あり。病院間でインシデント等の共有が出来ることが理想であるが、こちらは今後の課題といえる。 ・ 人員の増加が安定かつ安全な放射線治療の提供につながるが、学生教育が徐々に身を結びつつある印象であり、今後もこちらに力を入れてゆく。
県内で連携して、症例数の増加を図る	治療患者数 鳥取大学病院 県立中央病院 鳥取赤十字病院 県立厚生病院 鳥取市立病院 米子医療センター	2020 407 208 141 113 105 174 2021 407 200 147 114 84 148 ・県とも連携してCOVIDの影響を把握する ・各施設における過去複数年の傾向の把握 ・各施設の県の放射線治療における役割を把握し対応する。 ・各施設が意見交換して対策を検討する。	・鳥取大学においては新型コロナウイルス第7波の時に（7-9月）、2台目可動直後にかかわらず、治療件数が著明に減少した。コロナによるがん治療の遅れを示唆するものであると考えられる。他院においても減少傾向という報告あり。	・鳥取大学の放射線治療件数はR3年度8831件、R4年度8395件であり、特に2022年内は前年度を大きく下回る状況であった。2023年に入った後は件数の増加が続いている。この傾向は他病院でも同様であり、R4年度は症例の増加を図ることは困難であったと考えられる。